

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

トピックス

トマト黄化葉巻病(TYLCV)やキュウリ黄化えそ病(MYSV)等ウイルス病の被害が拡大しています。

栽培終了時にはウイルスの媒介虫を撲滅しましょう!

施設ほ場で発生しているシルバーリーフコナジラミやミナミキイロアザミウマはウイルス病の媒介虫でもあり保毒している可能性があります。

栽培終了時には媒介虫をハウス外に逃がさないように、薬剤防除やハウスの蒸し込みを行うなど防除を徹底して下さい。



トマト黄化葉巻病発病株



シルバーリーフコナジラミ

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並でしょう。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低く、2週目、3~4週目は平年並でしょう。

要素別確率

要素	(低い) (少ない)	平年並	(高い) (多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

(福岡管区气象台 18年4月21日発表抜粋)

予報第 2 号

向こう 1 ヶ月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生現況	発生予報	
		(平年比)	(平年比)	(前年比)
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	並	並	並
	萎縮病	-	並	並
	ヒメトビウンカ	並	並	やや多
	縞葉枯病	-	多	やや多
カンキツ	そうか病	並	並	やや多
	ミカンハダニ	並	並	並
ナシ	黒星病	並	やや多	やや多
ブドウ	黒とう病	やや少	並	やや多
カキ	炭疽病	-	並	並
	フジコナカイガラムシ	並	並	並
果樹共通	カメムシ類	並	やや多	多
茶	カンザワハダニ	少	並	少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並	少

予報根拠の (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は影響が少ないことを示す。

作物別発生予報

【普通作物 - 水稲】

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

4 月 5 半旬の片振り 2 0 回すくい取り調査の結果は次のとおりである (±)。

ツマグロヨコバイの越冬量 畦畔 0.2 頭 (平年：0.3 頭、前年：1.1 頭)

休閑田 0.9 頭 (平年：2.0 頭、前年：0.5 頭)

小麦田 0.1 頭 (平年：1.0 頭、前年： 0 頭)

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常発地を除き、防除の必要はない。

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア ツマグロヨコバイのイネ萎縮病ウイルス保毒虫率は、前年に引き続き2年連続で0%（平年：0.2%、前年：0%）であった（第1表）（-）。

イ 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬量は平年・前年並であった（±）。

第1表 地域別ツマグロヨコバイのイネ萎縮病ウイルス保毒虫率

採集地域	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	153	0	0	0	0
朝倉町菱野	188	0	0	0	1.1
久留米市太郎原	188	0	0	0	0
田主丸町益生田	188	0	0	0	0
大木町上八院	188	0	0	0	-
大川市北古賀	188	0	0	0	-
柳川市三橋町高畑	188	0	0	0	-
筑後市馬間田	188	0	0	0	0
黒木町木屋	188	0	0	0	0
行橋市長井	188	0	0	0	0
岡垣町黒山	188	0	0	0	1.6
各地域の平均			0	0	0.3

1)「-」:未検定

2)検定方法:エライザ

3 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

4月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果は次のとおりである（+）。

ヒメトビウンカの越冬量 畦畔 0.2頭（平年：0.1頭、前年：0.8頭）

休閑田 1.0頭（平年：0.6頭、前年：0.2頭）

小麦田 0.7頭（平年：1.8頭、前年：0.2頭）

4 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカ越冬世代の成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は5.3%（平年：1.9%、前年：6.0%）であった（第2表、図1）（+）。

イ 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬量は平年並、前年よりやや多かった（+）。

第2表 地域別ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

採集地域	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	188	7	3.7	2.7	1.2
朝倉町菱野	188	13	6.9	6.9	3.2
久留米市太郎原	188	8	4.3	3.2	5.5
田主丸町益生田	188	24	12.8	3.7	4.8
大木町上八院	188	8	4.3	7.6	-
大川市北古賀	188	8	4.3	-	-
山川町北関	73	4	5.5	1.7	5.6
柳川市三橋町高畑	188	5	2.7	14.6	-
筑後市馬間田	188	7	3.7	6.5	1.9
黒木町木屋	188	9	4.8	6.2	8.1
上陽町上横山	188	14	7.4	4.7	5.6
行橋市長井	188	8	4.3	2.6	0.0
岡垣町黒山	188	7	3.7	1.9	-
各地域の平均			5.3	6.0	4.0

1)「-」:未検定

2)検定方法:エライザ

(3) 防除上注意すべき事項

常発地域や保毒虫率が高くなっている地域では、感染防止対策として箱施薬剤を施用する。

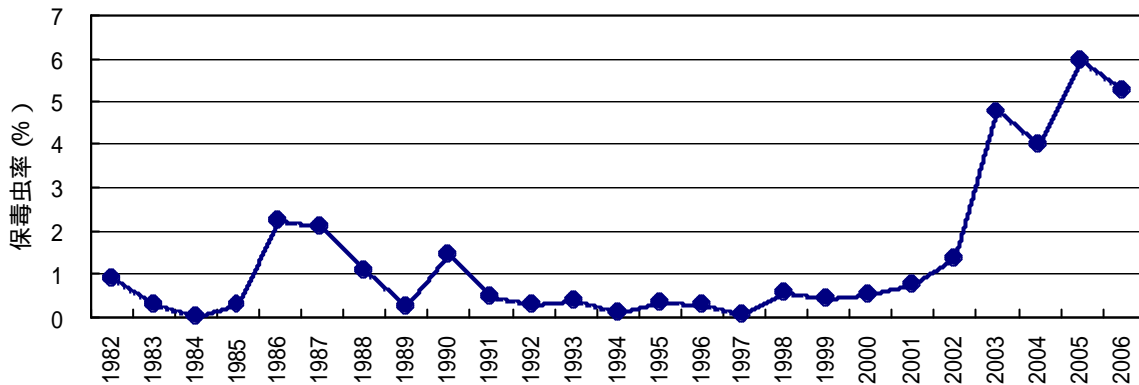


図1 ヒメトピウカの縞葉枯病ウイルス保毒虫率の年次変動

【果樹】

1 カンキツそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果は、次のとおりである(±)。

発病葉率 0.5% (平年 0.3%、前年 0.0%)

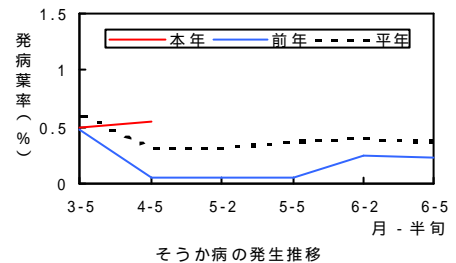
発生ほ場率 29.4% (平年22.9%、前年 5.9%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(+)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。



2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

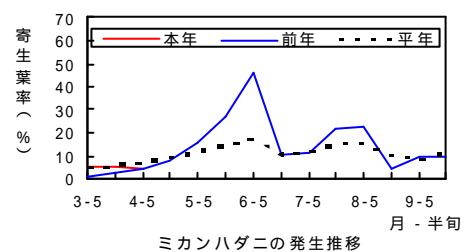
ア 4月5半旬調査結果は、次のとおりである

(±)。

寄生葉率 3.9% (平年 7.1%、前年 4.4%)

発生ほ場率 64.7% (平年 36.1%、前年 47.1%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。



3 ナシ黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

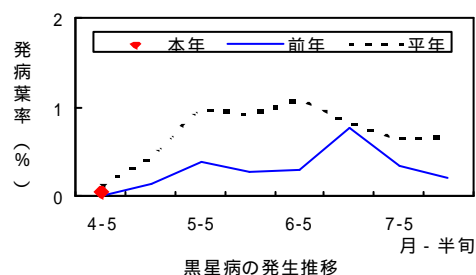
ア 4月5半旬調査結果は、次のとおりである

(±)。

発病葉率 0.1% (平年 0.1%、前年 0%)

発生ほ場率 13.3% (平年 7.5%、前年 0%)

イ 主要感染時期である開花期前後(4月上中旬)に降水量及び降雨日数が多く、感染に好適



な条件であった。潜伏期間は、4月では15～17日間である(+)。
 ウ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(+)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発する恐れがあるので、今後も防除を徹底する。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 ブドウ黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果は、次のとおりである(±)。

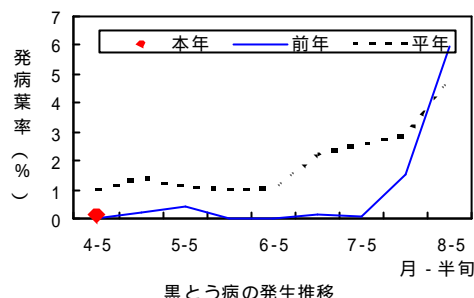
発病葉率 0.1% (平年 1.0%、前年 0%)

発生ほ場率 7.1% (平年 17.0%、前年 0%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病葉、罹病新梢は発生源になるので、できる限り取り除き処分する。



5 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

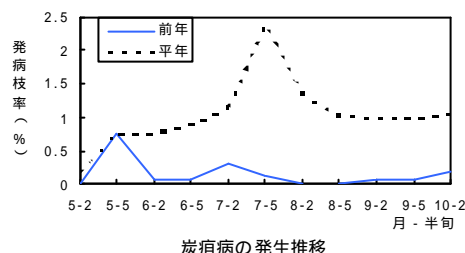
(2) 予報の根拠

ア 前年は5月5半旬に新梢で発生を初確認し、4～6月は少雨で経過、果実では7月5半旬に発生を初確認したが、以降発生は少なかった(-)。

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(+)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病枝は発生源になるので、取り除き処分する。
- イ 罹病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので薬剤散布を徹底する。



6 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査結果は、次のとおりである(±)。

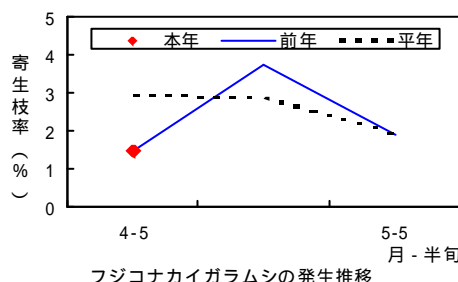
寄生枝率 1.5% (平年 2.9%、前年 1.4%)

発生ほ場率 35.3% (平年 49.5%、前年 43.8%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 現在越冬幼虫が新梢へ移動中なので、発生の多いほ場は開花前に必ず防除を行う。
- イ 本虫は、薬剤がかかり難い場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。
- ウ 開花前の防除はミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。



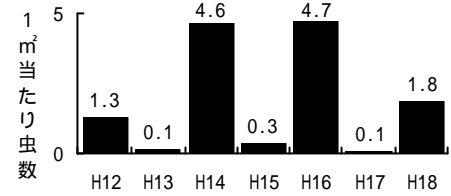
7 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多く、前々年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 越冬量は平均 1.8 頭(平年：1.6頭、前年：0.1頭、前々年：4.7 頭)であった(+)



チャバネアオカメムシの越冬虫数の推移

イ 4月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである(±)。

(調査地点：県内6か所の平均)

チャバネアオカメムシ 0.2 頭(平年：22.0 頭、前年：2.5 頭、前々年：102.2 頭)

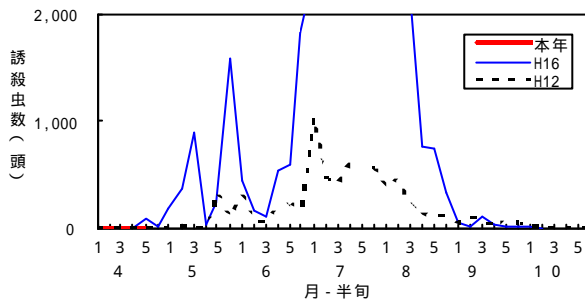
ツヤアオカメムシ 0 頭(平年：11.4 頭、前年：0.3 頭、前々年：35.2 頭)

ウ 4月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(±)。

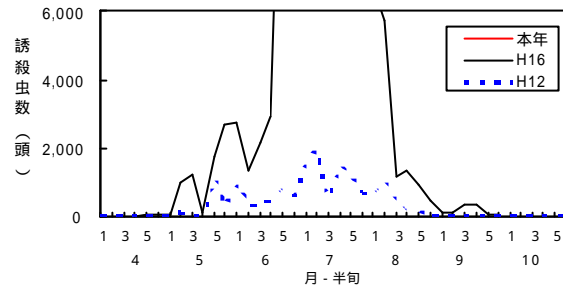
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 1 頭(平年：84.2 頭、前年：15 頭、前々年：55 頭)

ツヤアオカメムシ 0 頭(平年：1.6 頭、前年：0 頭、前々年：5 頭)



予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移



集合フェロモンにおけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移

エ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

気温が上昇すると活動が活発となり、果樹園への飛来が多くなると予想されるので園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。特に、ビワ、ウメ、モモ、スモモは注意する。

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予報		防除上注意すべき事項等
		(平年比)	(前年比)	
カンキツ アブラムシ類	並	並	並	
ナシ アブラムシ類	少	やや少	やや少	
カキうどんこ病	-	並	並	

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果は、次のとおりである(-)。

寄生葉率 1.3% (平年 3.8%、前年 6.2%)

50葉当たり虫数 2.3頭 (平年10.6頭、前年30.8頭)

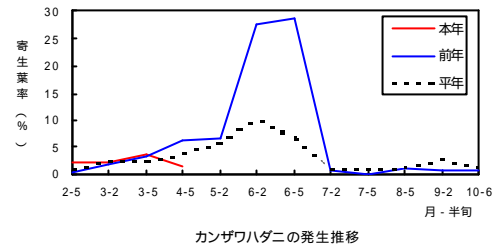
発生ほ場率 38.5% (前年76.9%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生状況をよく観察し、発生の多い(寄生葉率2.0%以上)園では一番茶摘採後に早めの防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



カンザワハダニの発生推移

2 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査結果は、次のとおりである(-)。

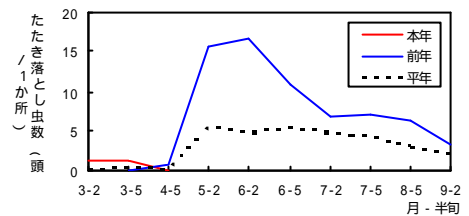
たたき落とし虫数0.2頭 (平年 0.3頭、前年0.8頭)

発生ほ場率 50.0% (前年57.7%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は平年並で、降水量は平年並が多い(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A 4 版白紙上)で10頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。



チャノキイロアザミウマの発生推移

【茶・その他の病害虫】

病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	(平年比)	(平年比)	(前年比)	
チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	並	並	

【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	(平年比)	(平年比)	(前年比)	
アスパラガス 斑点病	並	並	並	5、6月頃から発生する。 ほ場内や周辺の除草を徹底する。 4月5半旬調査結果は、寄生株率25% (平年26%、前年21%) であった。 早期発見に努め、発生初期から防除する。
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	少	並	並	
アザミウマ類	並	並	並	
鱗翅目	並	並	並	

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について
ホームページでお知らせしています。
ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jppn.ne.jp